

令和2年度 宮崎県立日南くろしお支援学校 学校関係者評価

4段階評価 「4…期待以上である」「3…ほぼ期待どおりである」「2…やや期待を下回る」「1…改善を要する」

評価項目	評価指標	学校の自己評価コメント	自己評価	R2保護者評価	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
小・中・高一貫した教育	①根拠に基づいた小・中・高一貫した教育課程の充実を図っている。	○ 児童生徒や保護者のニーズを生かした指導に努めているところであるが、さらに個別的教育支援計画と個別の指導計画の改善及び充実を図りながら、教育効果を高めていきたい。	2.7	3.3	3.3	○ コロナに関して非常に大変だったと思う。児童生徒の心のケアが必要となるかもしれないので観察をお願いしたい。
	②地域の人材や資源を活用した魅力ある学習活動を展開している。	○ コロナ禍の中であり、様々な活動の中止や延期はあったが、対策を十分行ったうえで可能な限りの外部人材の活用や校外活動等を実施することができた。	2.8	3.2	3.3	
	③発達段階に応じた小・中・高一貫したキャリア教育を推進している。	○ 縦のつながりを考慮した指導についての意識は高まってきていると考える。今後も家庭との連携を重視しながら、児童生徒の実態に応じた早期からのキャリア教育の充実を図ってきたい。	2.8	3.3	3.3	
	④主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動を推進している。	○ 多くの児童生徒は楽しく学校生活を送っている。一部の不適応行動等のある子どもたちの支援をさらに充実させるとともに、お互いの関わり合いを意識した授業づくりに努めていきたい。	2.7	3.5	3.3	
多様な学びに応じた専門性	①外部専門家と連携した教育活動を工夫している。	○ 外部専門家や講師を招聘した活動は可能な限り積極的に実施してきた。今後も学校の課題解決に向けて、関係機関との連携の充実を図ってきたい。	3.1	3.1	3.3	○ 児童生徒の特性に応じた支援を今後もお願いしたい。
	②課題に即した校内研究及び職員研修の充実を図っている。	○ 新学習指導要領を踏まえ、校内研究や職員研修の充実に取り組んでいるところであるがまだまだである。さらに教師の力量向上、授業力の底上げを図り、児童生徒の成長につなげたい。	2.9	3.2	3.3	○ 防災について、夏と冬を変えていくと違った課題が挙がってくると考える。
	③知肢併置校としての教育活動の充実を図っている。	○ 学年や学部の枠を超えた活動の充実を図っているところである。児童生徒の実態の多様性に対応するための、教師の専門性をさらに向上させていく必要がある。	2.8	3.2	3.5	○ 学校一丸となって取り組まれていることが大変よく分かった。コロナ禍で期間もなかっただろうが、いろいろ決定していくことは大変だったと思う。
	④合理的配慮の視点に立ったICT機器を活用した情報教育を推進している。	○ ICT機器の整備は進んできているが、教師の専門性向上が課題である。全ての教師がICT機器を活用した指導力を身に付けられるよう、研修の充実を図ってきたい。	2.5	3	3.1	
安心・安全な学校生活	①新型コロナウイルス感染症、南海トラフ巨大地震、緊急時搬送、不審者等の様々な危機に対応できる危機管理体制を強化している。	○ 危機管理マニュアルを整備し周知している。本年度は特に新型コロナウイルス感染症対策について、国や県の状況を確認しながら対応を行ってきた。今後も安心・安全を第一に万全の対策に努めていきたい。	3	3.2	4	○ くろしおオリジナルのものを出していただくと良い。
	②防災体制を確立している。(様々な状況を想定した避難訓練の実施及び安全な環境整備)	○ 1日を通しての日南くろしお防災プロジェクトを実施し、成果や課題を確認することができた。より現実的な対応ができるよう今後も備蓄品の充実、防災意識の高揚に努めたい。	3.1	3.2	3.8	○ 児童生徒の真剣な活動、はっきりと自分の考えを発言した授業参観が印象に残った。
	③計画的・継続的な防災教育の充実を図っている。(「命を守る教育」の推進)	○ 防災安全部が立ち上がったことで職員の意識は高まっており、防災教育も充実してきたと考える。今後は地域やPTAとも連携しながら、防災教育のさらなる充実を図ってきたい。	3	3.2	3.6	○ 先生方の献身的な取組に頭が下がった。くろしお支援学校と地域のつながりを大切にしていきたい。
地域社会とつながる	①保護者・地域・医療・福祉・労働等の関係機関と連携した教育活動を推進している。	○ コロナ禍の中、対策を行ってオープンスクールなどの開催ができた。制約はあるが、活動内容の改善・工夫を行いながら、様々なつながりを意識した教育活動を展開していきたい。	2.9	3.2	3.5	
	②交流及び共同学習の充実を図っている。	○ 学校間交流は、オンラインで交流したり、活動内容を工夫したりしながら対策を行って実施することができた。居住地校交流も相手校と十分打合せを行いながら実施できた。	3	3.2	3.5	
	③南那珂地区におけるセンターの機能の強化を図っている。	○ 教育支援部を中心に各校からの相談対応、コーディネーターの訪問を実施している。今後も地域児童生徒の支援の充実を図り、センターとしての役割を果たしていきたい。	2.9	3.1	3.5	